

テーマ「生徒から学ぶ教員スマホ研修」

実施主体：兵庫県立姫路別所高等学校、兵庫県立姫路別所高等学校生徒会

協力団体：兵庫県立大学環境人間学部 竹内准教授研究室

《取組の概要》

生徒会が行った生徒及び教員対象の事前アンケート結果等をもとにネットトラブル予防を考えるリーフレットを生徒会が作成し、そのリーフレットやLINE、Twitterなどの実演を通して、生徒会が教員に向けて研修を行った。

1 本事業に取り組んだ理由

本校では、昨年度よりネットトラブル防止に関わる啓発活動を生徒を主体にして取り組んできた。昨年度は生徒会が全校生徒に向けて啓発活動を行うという形で実施した。

今年度は生徒会メンバーの中から、高校生自身の声で、先生に現在の高校生の実態を説明し理解してもらいたいという声が出てきた。

これは、生徒へのネットトラブル予防に関する指導を行っていくにあたって、昨今高校生を含む若者世代で、急速に進んでいるネット・スマホ事情やその実態、その渦中にある高校生への理解が追い付いていないという教員の課題を解決していく目的と合致するものであったため研修会を実施した。

2 実施スケジュール

- 4月 第1回生徒熟議
- 5月 ネット・スマホ生活実態アンケート実施(生徒向け)
- 5月 第2回生徒熟議
- 6月 ネット・スマホ生活実態アンケート実施(教職員向け)
- 6月 リーフレット(「ネット・スマホの教科書」)作成
- 7月 教員研修実施



生徒熟議

3 事業展開

全校生徒及び全教員を対象にネット・スマホ生活実態アンケートを実施した。アンケートの作成・配布・回収・集計作業は生徒会メンバーが行った。

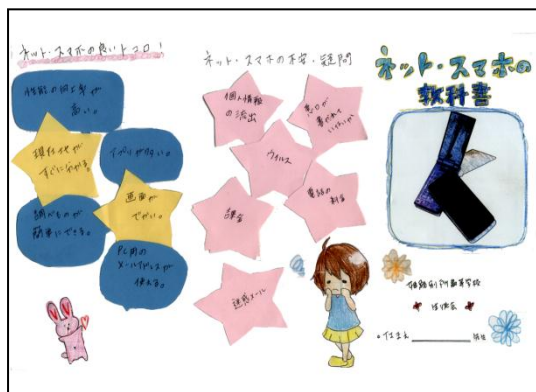
数回にわたる生徒熟議やアンケート集計結果の分析を重ね、生徒会メンバーでリーフレットを作成した。

教員には、アンケート実施や教員研修のねらいについて事前に職員会議・職員打合わせ等で周知を図った。

また、協力団体の力を借りて、各種メディアへの告知や取材要請を図り実現した。



職員研修



リーフレット(ネット・スマホの教科書)

4 事業の成果

ネット・スマホ指導に関する教員の意識に、明らかに変化があった。生徒の実態について大方の予想をしていたものの、実際には予想とかけ離れた実態があり、教員が生徒理解の重要性を再認識する機会となった。

研修に参加した生徒については、大変大きな自己有用感を感じることができ、その後の活動に積極的に取り組むようになった。

全生徒に本事業の取組を紹介することで、生徒と教職員の信頼関係が増し、後に実施した教員によるネットトラブル防止講話に対する生徒の聴く姿勢に良い影響があった。また、教員にとっては、講話の進め方やその内容を検討するにあたり大変参考となった。

5 事業を成功させるためのポイント

教員に本事業のねらいの周知・理解をすすめることが最大のポイントであった。本校では、従来から教員の生徒への指導に対する姿勢は温かいものがあり、生徒を受容する気持ちで日頃から指導を進めていく姿勢が根付いていたため、スムーズに進められたと考えられる。

また、各種メディアへの告知や取材要請が功を奏したことは不可欠な条件であったと思われる。教員の中には、「自校の高校生が教員に研修する」ということへの抵抗感、新しい取組への不安感、今後の指導に役立つのかという不信感が当初あったことは容易に想像できた。しかし、協力団体の支援とメディアからの注目や取材をいただいたことが大きな力となった。

6 今後の展開

今もなお、ネットやスマホに絡む状況は刻々と変化しており、その実態を理解していくことはネットトラブル防止啓発活動を進めていくにあたり必要不可欠だと考える。

今後も生徒の力を活かしたネットトラブル防止啓発活動を進めていく中で、学校のみならず、家庭・地域社会など社会全体の問題として取り組む方策を模索していきたい。本校生徒会では、この後、地域の公民館や特別支援学校での啓発活動を実施した。今後は、中学校や小学校での啓発活動にも取り組んでいきたいと考える。

大人が子どもの力を信じ、生徒の問題意識を引き出そうとする姿勢を持つことで、取組が継続・発展されていくと考える。そして、大人がその姿勢を持って生徒の力を活かせば、解決への可能性は無限に広がっていく。

7 参考資料等